



Q.八街市での活動のきっかけは？

…それは八街市内在住の K 夫妻の 1 本の電話でした！

K 夫妻は 2022 年の印西市“吉高の桜祭り”で出会ったムッチーさんの歌にほれ込んで、2 年間印西市内のイベントに通いました。しかし、子どもたちに遠距離運転を心配されて行けなくなりました。2024 年 9 月に「聴けなくなり残念です 😞」と K 夫妻から電話を受けたムッチーさん。「それならこちらから行きますよ！」と、演奏会場を検索してヒットしたのが喫茶アルルカン。翌月にはボランティア活動スタート！毎月 1 回午前の特養、午後はデイ利用者・一般向けに活動しています。もちろん K 夫妻も毎回楽しみに参加しています ♪



Q.これからの夢は？

昨年、デイサービス利用者の依頼で自身の詞にムッチーさんが曲をつけ『八街風の村 ♪』という施設の非公式ソングが誕生しました。歌の活動の最後にみなさんと歌える三拍子の優しい曲です。目下、マツケンサンバや宇宙戦艦ヤマトの作曲で有名な宮川彬良さんと娘の安利さんのユニットに夢中。ライブや YouTube を楽しんでいます。「これからも体力気力の続く限り音楽ボランティア活動を続けたいです。八街？遠く感じないですね。良いバランスの心地よさを感じています。」

(聞き手：八街センター 富永)



お知らせ

- ◆9/26(土)「ジャズ・ポップスライブ♪」in 喫茶アルルカン(八街市)
- 【問い合わせ・申し込み】080-5546-3708(高橋)
- ◆生活支援ケアスタッフを募集しています。詳しくはこちら→
- ◆振込用紙が同封されている方は、今年度会費の納入をお願いします。



音楽ユニット「カラフルスタイル」ムッチー&ゆみこさん 「音楽は人生そのもの♪」

印西市在住のおふたりは、10 年ほど前から社協の依頼で高齢者・障がい者・子育て支援施設で歌のボランティア活動中。ムッチーさんは音楽制作のプロ。ギター歴 50 年の音色と心地よい低音ボイス。ゆみこさんの軽快な太鼓に合わせてみなさん歌います。民謡・演歌・唱歌・キッズソング・なんでも OK♪



▲息もぴったりムッチー&ゆみこさん
(武藤浩・由美子さん)

Q.ムッチーさんにとって音楽は？

…「人生そのもの、音楽はバランスが命です♪」

「バンドメンバーとの音・来場者の雰囲気や呼吸・主催者との関係性…そのすべてのバランスがいい時にいい音楽が生まれます。実行委員を務める“印西まちなか音楽祭”でも、その“バランス”が良い祭りを生み出すと考えています。」それは喫茶アルルカンでの演奏でも感じます。マイクでの歌声もトークもさりげなく優しい。デイ利用者の声をいい塩梅で受け止め進行していく、そのバランスの良さと居心地の良さを感じます。



▲喫茶アルルカンで



各センターで人材大募集！
あなたの魅力を貸してください。

ボ ボランティア 参 参加者 仕 仕事 場 場所貸出

【八街センター】 Tel 043-440-0181

・風の杜ひろば 参 企画参加者 参 草取り
場 ひろば利用

・子育てサロン 参 参加者
・風のロτζジ 場 イベント開催・ロτζジ 利用

【千葉センター】 Tel 043-290-8017

・地域食堂 参 調理や運営スタッフ
・こどもカフェ 参 運営スタッフ
・あみいこ 参 麻雀イベント 参 講座参加
・生活支援サービス 仕 ケアスタッフ

〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1107-7
【Tel】043-290-8015【Fax】043-290-8016
【E-mail】info@ccmachinet.jp
【URL】https://www.ccmachinet.com
2026 年 7 月発行



コミュニティケア街ねっと

つなぐ〜る

2026 年夏号
vol.62

キーワードは
つなぐ・つながる

～p.2.3 特集～
「柏センターの歩み」

第 18 回通常総会開催報告

これまでの中期計画を継承して 新たな一歩へ

街ねっとの通常総会が 6 月 21 日に開催され、すべての議案が承認されました。2025 年度は第 5 次中期計画の最終年度にあたり、これまでの中期計画を振り返ることで、街ねっとが大切にしてきた視点

- ◆「つなぐ・つながる」というキーワード
- ◆「相談支援と社会参加支援」という二つの柱
- ◆「世代や対象を問わない居場所」「途切れない支援」

が、現在の活動の核として受け継がれていることを確認しました。今後は中期計画ではなく年度計画をより充実させ、地域共生社の実現に向けて取り組みを進めていきます。



街ねっとの地域づくりを支える
「地域コーディネーター 3 人衆」
柏センターの竹中さん(写真中央)が
退任し、今年度からは千葉と八街で
頑張ります！



▲街ねっと中期計画。詳しくはこちらから→



▲挨拶しているのは新理事に就任した前田雄平さん
(NPO 法人ユニバーサル就労ネットワークちば
千葉市子ども・若者総合相談センターLink)

柏センターの事業は地域の力で継承されました

2026 年 3 月末日をもって柏センターは閉鎖となりましたが、ほとんどの活動を地域へ引き継ぐことができました。総会の後には「柏センターの歩み」が報告され、長年培ってきた取り組みが途切れることなく地域に継承されたことを、参加者とともに分かち合いました。



………… おつかれさまでした！ ……………

柏市中新宿光ヶ丘地域で、長きにわたり地域活動に尽力してきた
地域コーディネーター 竹中さん(写真中央)
生活支援サービスコーディネーター 小口さん(写真右)
柏担当役員 新保さん(写真左)



柏センターの 20 年の軌跡は、p2, 3 の特集「柏センターの歩み」をご覧ください。➡➡



特定非営利活動法人(認定 NPO 法人)
コミュニティケア街ねっと
【発行責任者：飯島 晃子】

柏センターの歩み

(2005年～2025年)



柏センターは2005年に開所以来、地域の問題に向き合い、人と人をつなぎ、さまざまな地域活動の支援を続けてきました。そして、地域コーディネーターやスタッフが、時間をかけて、ゆっくり蒔いてきた種は、ひとつずつ実を結んでいきました。その地域づくりの20年間をご紹介します。

- ▶ 2005年 地域生活支援センターあいねっと内に開所
- ▶ 2010年 風の村光ヶ丘へ移転

ボランティアの活動を支援する

ボランティアの養成 (2005～2010)

- **傾聴ボランティア講座** (柏市・野田市)
⇒両市に傾聴ボランティアグループを立ち上げ、施設や個人宅での活動をコーディネートしました。
- **高次脳機能障害者のサポートボランティアを養成**
⇒2013年まで活動の場も開拓し、サポートすることで障がい者の社会参加を支援しました。
- **傾聴講演会の開催** (2008、2010)
特に2010年の講演会は注目され87人が参加。ボランティア相談が増えました。



- 福祉事業所からの生活に関する相談から、ゴミ出し、通院同行ボランティア活動がうまれました。

- 2010年に風の村光ヶ丘へ事務所移転してからは**サポートハウスでの入居者のニーズに合った多様なボランティア活動をコーディネート**
・誕生日カードの作成 ・ふれあい喫茶のボランティア ・演芸披露



柏市との協働事業 (2012～2014)

- ～住み慣れた地域でその人らしい暮らしをサポートする見守り事業～
- 地域の町会から相談があり、たすけあい活動の立ち上げを支援しました。40名のサポーターによる活動が2014年4月から開始。



支えあい推進員としての活動 (2015～2023 柏市から受託)

- 団地内の空き店舗活用事業として地域住民のためのコミュニティカフェの開設と運営に取り組みました。
- たすけあい4団体・通いの場2団体の立ち上げを支援しました。
- 買い物支援グループが誕生しました。
- 買い物支援は活動の幅を広げて、たすけあい団体になりました。

柏市と問題を共有し、支えあいを推進する

介護する人を支援する

ケアラー支援ネットワーク協議会設立 (2016～2022)

ケアラーネットみちくさと協働し、ケアラー支援ネットワーク協議会を設立し事務局を担いました。2017～2022年「介護者のつどい」などを開催し、専門職と協働し介護者支援の理解と広がりをつくりました。また2022年「ヤングケアラー支援シンポジウム」では、全国から300名(Zoom含む)の参加があり、ヤングケアラーの実態・行政の取り組み状況を知り、私たちは何をしていくかを考えました。



ケアラースカフェくれよん

(2014～2018) 隔月で開催。
男性介護経験者も講師として活躍。



住み慣れた地域での暮らしを支える

生活のちょっと困った を支援して自分らしく暮らす

2007年から福祉や生活に対する相談を受け、地域のさまざまな支援情報やボランティアの募集などで対応してきました。

- ゴミ出し・通院同行などのボランティア
- たすけあい団体の立ち上げを支援。保存版“たすけあいリーフレット”を光ヶ丘地区全戸(11000世帯)に配布し、つながることの大切さと活動を伝えることができた。
- 当法人でも風の村の助成を受け、「生活支援有償サービス事業」を開始しました。



生活支援サービス事業

(2013～2025)

風の村の助成を受けて、介護保険制度ではまかなえない生活支援サービスを開始。室内の環境整備・食事作り・病院同行・買い物代行・話し相手…など、生活の困ったを支援して、たくさんの利用者の「自分らしく生きたい」を支えてきました。2016～2025年の8年間で13,843件23,170時間のケアをしました。



居場所づくり

あみいこ柏 (2012～2025)

- 2012年～健康麻雀教室
- 2014年～ニット教室、折紙教室、手芸の会など



【累計企画数】1,180企画【参加のべ人数】15,149人

地域での仲間づくり・交流の場

居場所づくり

安心システム柏

光ヶ丘サロン (2016～2025)

月2回開催…健康講座や味噌づくり、演奏会、ヨガなど。
⇒2025年からは「街の相談室 光ヶ丘」として継続しています。

街の縁側よってって (2018～2025)

週1回、昼食を提供し、施設利用者や家族も参加しました。コロナ禍休止ののち「認知症カフェよってって」として再開。認知症で参加できなくなった利用者の生活をボランティア達が支え、認知症看護認定看護師(写真左)による認知症予防の講座と相談を企画。推進会議に風の村の全事業所長が参加し、職員の参加が増え、活動への理解が深まるとともに、連携した講座の開催や相談対応や、介護サービス利用者の参加につながりました。



居場所づくり

子ども支援 …… 子どもたちを見守り・はぐくむ ……

コミュニティデザイン (2019～2022) の取り組みなどから生まれました。

■ 算数教室「単元王」(2020～2025)

コロナ禍での子どもの学力低下を心配した元教師たちが講師になり、地域ボランティアに見守られて、無料の学習支援が始まりました。手作りの教材や、長期休みの特別教室などにより、子どものやる気が育ち、成果を出しています。



■ 子どもフェスタチーム (2022～2025)

コミュニティデザインのワークショップから、子どもフェスタチームが誕生。第1回フェスタには140名・スタッフ23名が参加してにぎわいました。子どもフェスタは2025年まで6回開催し、若いママたちが企画を練り、子どもから高齢者まで楽しみました。



■ つなぐ・つながるくれよん (2023～2025)

美味しいご飯を食べて、楽しく遊ぶ！



生活支援ケア者が中心となって子どもの居場所・子ども食堂「つなぐ・つながるくれよん」を運営しました。参加者とは顔の見える関係になっています。フードパントリーも実施しています。

- 算数教室「単元王」は自立して継続！
- つなぐ・つながるくれよんも継続！
- 子どもフェスタは「風の村みんなのフェスタ」として開催を期待！

ケア者有志が手を挙げて地域住民主体のたすけあい団体「たすけあいマカロン」として途切れることなくケアを提供中！

■ 健康麻雀教室は、サポーターを中心に地域のサークルとして開催を継続中！

街あっとが支援してきた成果が実を結び
地域の力で活動が引き継がれました！
これからも地域の手で継続されることを願います